



△「心臓の病気と心臓手術の体験」講座風景

<6・7 高校卒業後を想像して…大学出張講義>

6月7日(金)の6・7校時はフロンティア探究とLHRの時間を利用して、第3学年の全生徒を対象に大学出張講義を実施しました。この行事は、生徒が自分の進路希望をもとに、興味のある分野を選択し、その分野の大学の先生から直接講義を受けるというものです。当日は、実際に大学で講義を受け持っておられる県内外の9名の先生方を本校にお招きし、講座を担当していただきました。どの分野の先生方も非常に熱心にお話いただき、生徒たちも真剣な眼差しで講義に耳を傾けていました。普段の授業では聞くことのできないような大学での学びを先取りした内容もあり、受講した生徒たちに対して学問的な刺激を与えるような機会となりました。開講した9講座の講師とテーマについては、次の通りです。

7月の進路関係行事

- 2(火) 第2回定期試験
[~5(金)]
志望校検討会
[~3(水)]
- 12(金) 進研記述模試③
- 13(土) 進研記述模試①②③
- 15(月) 海の日
小論文課外③(1)
- 18(木) 全統マーク模試③
- 20(土) 全統マーク模試③
保護者会③
- 23(火) 三者懇談期間①②③
[~8/5(月)]
- 24(水) 月曜授業
南九州インターハイ
[~8/20(火)]
- 26(金) 終業式、大掃除
- 27(土) 大学別模試③
[~28(日)]
さが総文祭
[~8/1(木)]
- 29(月) 夏季課外③ I 期
[~30(火)]

分野	講 師 (所 属)	テ ー マ
人文科学	久米 順子(東京外国語大学)	世界と過去と繋がる／繋げる美術史の実践と役割
社会科学	中島 美香(中央大学)	情報法の世界へようこそ
教育	梶原 郁郎(山梨大学)	「できる」学力と「わかる」学力
生命科学	若山 照彦(山梨大学)	クローン動物の作り方(絶滅動物の復活に向けて)
理学	山延 健(群馬大学)	化学的視点で見ると身の回りのプラスチック
工学	小谷 信司(山梨大学)	ロボットの話、画像処理でできること
薬学	花輪 剛之(東京理科大学)	臨床製剤設計学・患者に優しい製剤を創る
看護	新藤 裕治(山梨県立大学)	看護師にとって大切なことーケアの本質ー
医学	加賀重亜喜(山梨大学)	心臓の病気と心臓外科手術の体験

東京外国語大学の久米先生は、中世美術史を専門とされており、生徒たちに絵画の写真を見せ、「こうした作品はレオナルド・ダ・ビンチが描いた作品とは違い、世界でもほとんど知られることのないものです。「では、なぜそんな作品を研究する必要があるの?」と皆さんは疑問に思うかもしれませんが、でも、時代的にも距離的にも離れた作品であっても、その作品が創られた背景には、その時代の出来事の影響やその時代を生きた人々の考えがあるのです。絵画は見ればだれでも理解できると思われがちですが、実は絵画の理解には、その作品が生み出された文脈を理解する必要があり、つまり「絵画のリテラシー」が要求されるのです。」と説明されていました。また、山梨大学医学部の加賀先生は、実際の心臓外科手術の動画を見せながら、人工心肺に心臓を繋ぐための手技を説明し、「みんな驚いているけど、これは心臓手術の基本中の基本だからね」と仰り、実際に手術で使用する器具などを示しながら具体的に説明してくださいました。

今回の講義では、実際に大学の教壇に立たれている先生方から、現在大学で行われている学門のいわば「入り口」を見せていただきました。生徒のみなさんは、今回の講義を聞いてどのように感じましたか? 普段、高校の授業では聞くことのできないような貴重なお話を聞くことができましたね。ぜひ、今回の講義をきっかけに、さらに学びを深めたいという気持ちを持っていただきたいと思います。

※○数字は学年を示します

<令和2年度 大学入試センター試験情報 (現3年生向け)>

6月5日に令和2年度大学入試センター試験実施要項が発表されました。受験案内の配付は9月2日(月)、出願期間は9月30日(月)～10月10日(木)となりました。試験日は来年1月18日(土)・19日(日)で、時間割は昨年までと変更はありません。詳細については9月に要項の配付と併せて説明会を実施する予定です。2日間にわたる長丁場の試験には、学力もさることながら気力・体力も必要です。今年の3年生が最後のセンター試験受験者となりますが、ぜひ心身ともに健康を保ち、最後まで頑張り抜きましょう!

<令和3年度 大学入学共通テスト情報 (現2年生・1年生向け)>

6月7日に大学入試センターより、令和3年度の大学入学者選抜に係る大学入学共通テストについて出題教科・科目の出題方法等及び問題作成方針を定めたという発表がありました。以下、気をつけたいポイントについて、発表された内容から抜粋しながら記載したいと思います。

第1 問題作成の基本的な考え方

- 共通テストでは、思考力・判断力に加え、「表現力」を問われる。<国語と数学で記述式の問題を導入>
- 生徒が学習する場面、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など問題の場面設定を重視する。<実用的な文章(国語)・初見の資料(社会)・日常の事象(数学)・身近な暮らしに関わる内容(リスニング)>

第2 出題教科・科目の出題方法、問題作成のねらい、範囲・内容等

- 過年度卒業生の別問題は作成されない。<現3年生が浪人した場合も、現役生と同一問題>
- 教科書等で扱われていない資料等も扱う場合あり。

第4 記述式問題及びマーク式問題の新たな出題形式

- 国語と数学でそれぞれ小問3問の記述式問題を導入。記述式問題の成績は、国語はマーク式と異なり、全体及び小問ごとの段階表示を行う。数学はマーク式と同様に配点する。
- 記述式問題の採点は民間事業者に委託。
- マーク式問題の新たな出題形式として、連動型の問題(連続する複数の問いにおいて、前問の答えとその後の問いの答えを組み合わせさせて解答させ、正答となる問題)の出題。

出題教科・科目の問題作成の方針(大きな変更のある教科・科目のみ記載)

国語：実用的な文章の出題、記述式問題は小問3問で構成される大問1問(字数は最長のもので80～120字程度を上限)

数学：記述式問題は数学Ⅰの内容に関わる問題。マーク式と混在させた形で数式等を記述する小問3問を出題。

理科：選択問題は設定しない。

英語：発音・アクセント・語句整序などを単独で問う出題はない。リスニングは当面1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施する。リーディングとリスニングの配点は均等とする。ただし、どの技能にどの程度の比重を置くかについては各大学の判断となる。

※詳細については、大学入試センターのウェブサイトをご覧ください。

<進路を考えるヒント> は今回はお休みです。

